人文地理学研究　XII　113～137　1988

ルイジアナ州アセンション郡における墓地形態
――死の地理学序説――

中　川　　正

I　はじめに
II　研究方法
III　調査地域の概要
IV　墓地形態の分布
IV－1　社会的特性
IV－2　規模
IV－3　埋葬形態
IV－4　埋葬方位
IV－5　クロスの使用
V　墓地からみたアセンション郡の文化地域
VI　むすび

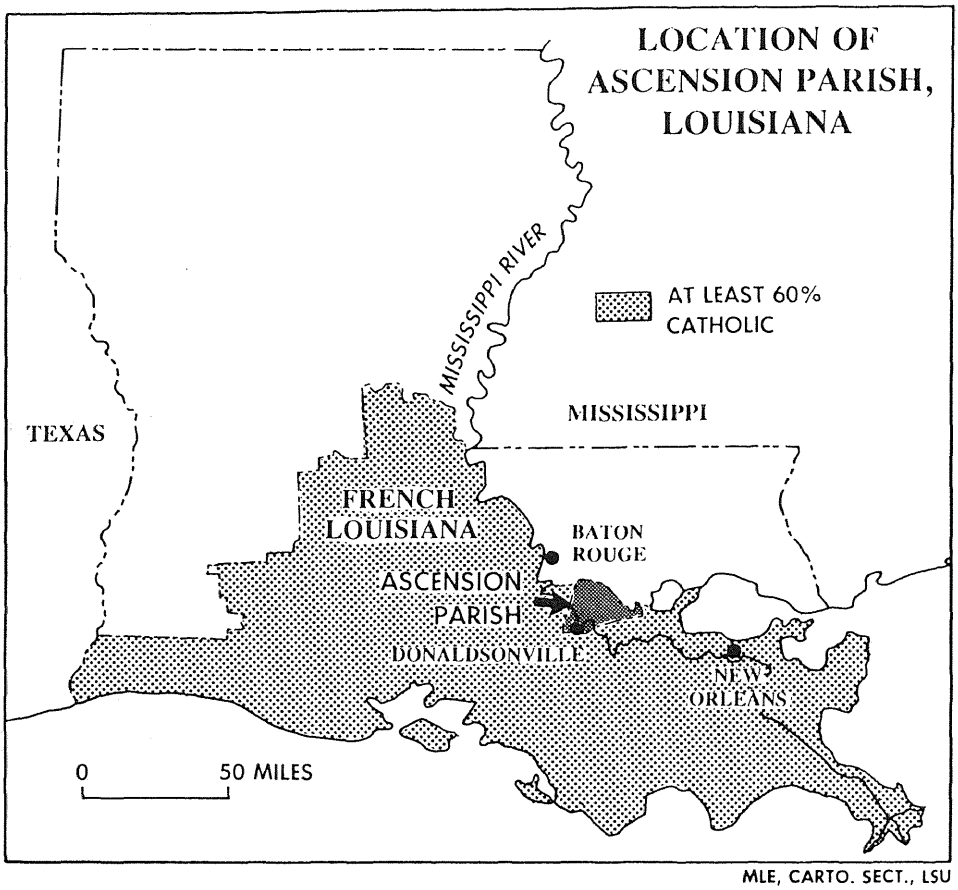
I　はじめに

墓地の地理学的研究は，しばしば「死の地理学」(necrogeography) と呼ばれている[1]．死の地理学は，広義には埋葬慣行，死亡率，死亡原因，死に対する知覚など，死に関するいかなる現象をも分析対象とするが，その中でも墓地は形に現われた文化景観として，最も効果的な対象の一つであろう．すでにサウアーによって提唱されているように，地理学的研究は文化景観として表現された有形文化の複合を対象とすることによって，その体系的なアプローチが可能となるといえよう[2]．

死の地理は，生ける人間世界を縮図として描き出す小宇宙的な地理としてもとらえられる，人類普遍の死という現象に対して，大多数の文化は，死体ないしは火葬後の遺骨を墓地に収納するという対応を示す．もちろん墓地に収納される人々はすでに死者であるが，彼らを埋葬し，墓石を置き，墓地景観を形成するのは遺族，集落，宗教共同体，商業団体などの生けるコミュニティである．したがって墓地は生けるコミュニティの単位とみなすことができる．

また，墓地は人間世界同様，複雑な景観を示す．その要素には，墓石，墓装飾，道路，植生，フェンス，門など様々なものが含まれ，それぞれが人間世界を多少とも反映するようなパターンを形作っている．さらに墓地は，生ける世界同様，空間的[3]，時間的[4]，民族的[5]，宗教的[6]，経済的[7]に差異を見せ，その両者に密接な関係が存在することが指摘されてきている．

しかし，墓地は人間世界の単なるミニチュアではない．墓地と生ける世界との最も大きな差異は，墓地に眠る人々が死者であるという事実に基づく．死者は生物的，社会的な要求を何ら持たない．ブリューヌは，人間共通の要求として，水，食料，住居，衣服，コミュニケーション，繁殖，社会的生活，遊びをあげているが[8]，死体はこのいずれをも求めることはない．死体は墓地という特別な空間さえも必ずしも必要としないことは，多くのヒンズー教徒が火葬後の灰を川に捨てるという事例からも知ることができる．墓地は人間の生物的要求の所産ではなく，それを必要と考える人間の価値の所産である．したがって，墓地は人間世界のすべての側面というよりは，価値的・信仰的側面を強く現



第1図　アセンション郡の位置

わす小宇宙とみなすことができよう．

以上の認識にたてば，墓地景観の空間的差異を，その形成者たるコミュニティと関連させながら分析することによって，その地域の人々の信仰の空間的パターンを把握することができると考えられる．もし文化景観研究の目的を，ワグナーとマイクセルの提唱したように，文化景観自身の体系的記述，地域区分，人間による地表面改変の解釈，文化集団の特質の理解とするならば[9]，墓地景観の研究は，そのいずれの目的にも合致する魅力的な課題であるといえよう．

本稿は，死の地理学の序説として，アメリカ合衆国のルイジアナ州アセンション郡における全墓地の景観調査によって，同地域の文化地理の把握を試みる．アセンション郡は後述するように，基本的にはフランス系ルイジアナに属する（第1図）．しかし，アングロサクソン地域に近接する郡東部の台地上で，西部でみられるほどの典型的なフランス系ルイジアナ文化がみられないということは，断片的に報告されてきた[10]．本稿は墓地を指標として，アセンション郡内の文化的差異が実証的，かつ可視的にとらえれることを示すことによって，墓地研究の価値と発展性を具体的に提示する．

Ⅱ 研 究 方 法

墓地に関する既存の統一的なデータは，アメリカ国土地理院（United States Geological Survey）発行の大縮尺の地形図のみである[11]．地形図に記載されている情報は，墓地の位置と名前に限られ，所有者，宗派，起源，墓地景観要素に関する知識は，現地に行くことなしに入手は不可能である．ルイジアナ州墓地局に登録されている墓地に関しては，その所有者，面積，および年次ごとに埋葬数が記されているが，登録墓地は地形図に記載されている墓地の３分の１に過ぎない．したがって，研究のためには現地調査が不可欠となる．

調査は，２万４千分の１地形図に記されているすべての墓地を訪れ，聞き取り，観察，及び写真撮影という方法によって行なわれた．まず数墓地において詳細な観察が行なわれ，埋葬方法，その伝統と変遷，墓地とコミュニティの関連に関する基礎知識を得ると同時に，アングロサクソン系，フランス系，黒人系間で，あるいは地域間で異なる景観要素の抽出がみられた．その予備調査に基づいて７ページからなる調査表が作成され，その調査表に基づいて本調査が行なわれた．

調査項目としては，墓地の属性に関するものと，景観要素に関するものに分類される．墓地の属性としては，墓地の位置，自然条件，規模，名前，所有団体，その宗教，民族，起源が，そして景観要素として付属施設，樹木，その他の植生，墓地内の道路，埋葬位置，埋葬方位，墓石の有無とその形態，墓装飾，クロス・像の頻度，墓石に用いられているシンボル等が項目として選択された．そのうち本稿では，とくに地域差や民族差を顕著に現わす要素を検討する．現地調査は，1984年の９月と10月に行われた．

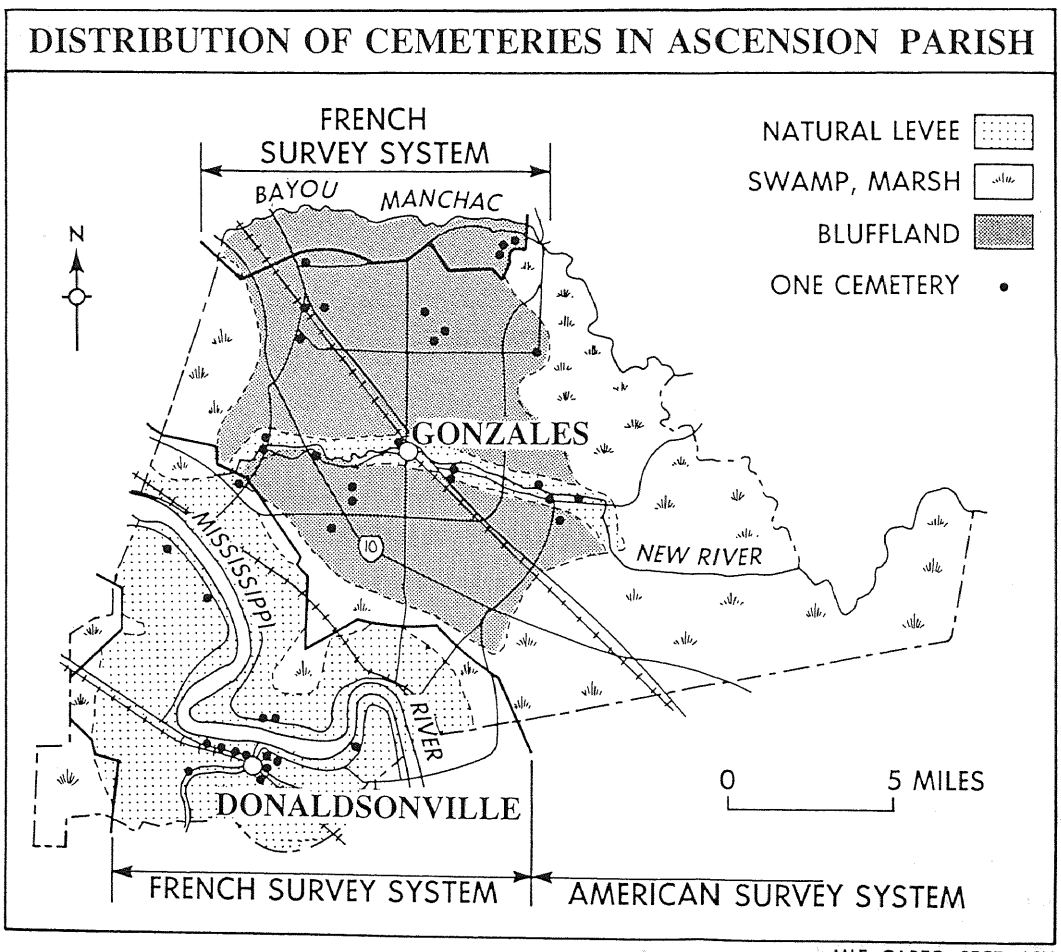
Ⅲ 調査地域の概要

ルイジアナ州の63郡の１つであるアセンション郡は，州都であるバトンルージュと大都市ニューオーリンズの中間にあり，ミシシッピ川両岸にまたがっている．北緯30度西経91度に位置し，緯度では日本の屋久島南方に対応する，面積は約810平方キロメートルで，ほぼ佐渡島に匹敵する，1980年センサスによる人口は，50,068である．ミシシッピ川西岸の郡裁判所所在地であるドナルドソンビルの人口は7,901，ミシシッピ川東岸の中心地であるゴンザレスは，7,281人を有する．全人口の77％は白人であり，その８割以上はカトリック教会に属している[12]．人口の23％を占める黒人に関する宗教調査は行なわれていないが，黒人教会の分布から考えると，その大部分はプロテスタントであると考えられる．

アセンション郡を検討する際には，まずルイジアナ州全体の文化地理的基礎知識が不可欠である．ルイジアナを文化的に最も特徴付ける現象は，北ルイジアナと南ルイジアナの際だった民族構成である（第１図）．北ルイジアナに住居する大多数の民族集団は，しばしば「台地南部人」（Upland South）と呼ばれる，スコットランド・アイルランド人の血が強く混じったアングロサクソン系人種である．現在の台地南部人の先祖は，1725年から1775年にかけて，現在のペンシルベニア州のランカスターからジョージア州のオーガスタにいたるアパラチアやピードモント地域において独自の文化を

形成した後，1775年から1825年にかけて，北ルイジアナを含む合衆国南部全域にわたって移住を行なったとされている[13]．南部の台地地域全域にわたって，彼らの属性や，彼らの形成する景観には驚くべき類似点があることが報告されている．台地南部人は，バプティスト，メソディスト，長老派を中心とする合衆国でも最も保守的なプロテスタントである．彼らの集落形態は，典型的に散村的であり，郡の中心地では，裁判所を中心とする格子状の都市形態を呈する[14]．

これに対して，南ルイジアナの大多数はフランス系である．彼らの祖先は，カナダのアカディア島（ノバスコシア）からイギリス政府によって追放され，1965年から1785年にかけて南ルイジアナに移住してきた小農民である．彼らは，まずミシシッピ川流域の，今日のアセンション郡に上陸し，それから南ルイジアナの各地に散らばっていった[15]．彼らは，「ケイジャン」(Cajun) と呼ばれ，現在でも50代以上の人々が，家庭内でフランス語を常用している．台地南部人達とは対照的に，彼らの宗教はほとんど例外なくローマカトリックである．典型的な南ルイジアナでは，集落が河川の自然堤防に沿った集村的形態を示し，郡の中心都市では，カトリック教会が中心にそびえている．



第2図　アセンション郡における墓地の分布

アセンション郡は，歴史的にフランス系ルイジアナとしての性格を，その入植初期から強く示してきた．標高が海抜10m以下という低地に属するアセンション郡は，ミシシッピ川自然堤防，後背湿地，急崖地（bluffland）の自然地域より構成されるが（第2図），最初の主要な入植は，自然堤防上に行なわれた．前述したように，18世紀後半に4,000人以上のアカディアからの難民が，ミシシッピ川のアセンション地域から上陸を行なったが，その中にアセンションの自然堤防上に集落を築いて入植するものも少なからずあった．彼らは，ミシシッピ川に垂直な測量線によって土地を分割するいわゆる「フランス式土地割制度」を導入し，道路を川沿いに作り，家屋をその道路沿いに建築することによって，路村的な景観を形成した．この土地割景観は，やはりフランス系民族の移住先である郡北部のバイユー・マンチャク川沿いにも見ることができる．ドナルドソンビルは，このフランス系ルイジアナ人の中心都市として栄え，1830年から1831年にかけてはルイジアナ州の州都にもなった．

19世紀になって，入植地域は，ニューリバー川流域の自然堤防上や，急崖地地域に東進した．とくに1880年に，ルイビル・ニューオリンズ・アンド・テキサス鉄道が開通してから，ゴンザレスがアセンション郡東部の中心都市として発展した．同時にアングロサクソン系の人々も流入してきた．現在ゴンザレス北部は，バトンルージュの郊外地域として，とくに主要幹線道路沿いに都市化の影響が強く現われてきている．この地域の黒人に関する詳細な記録は存在しないが，観察，聞き取り，そして他地域における研究から，次のようなものであると推測される．南北戦争以前には，黒人達は奴隷として，ミシシッピ川自然堤防沿いのプランテーションの奴隷小屋に集村形態を形成して居住していた．奴隷解放後，多くの黒人は都市へ流出したが，それでも少なからぬ者が，分作小作人としてプランテーション所有者と契約を結んだものと考えられる[16]．現在ミシシッピ川流域の農村地帯にする大多数の黒人は，この地域に働いていた奴隷達の子孫であろう．郡内のその他の地域にする黒人達もほぼ同様であろうと考えられるが，都市部，とくにゴンザレスには，他地域からの移住者も少なからず存在することが考えられる．

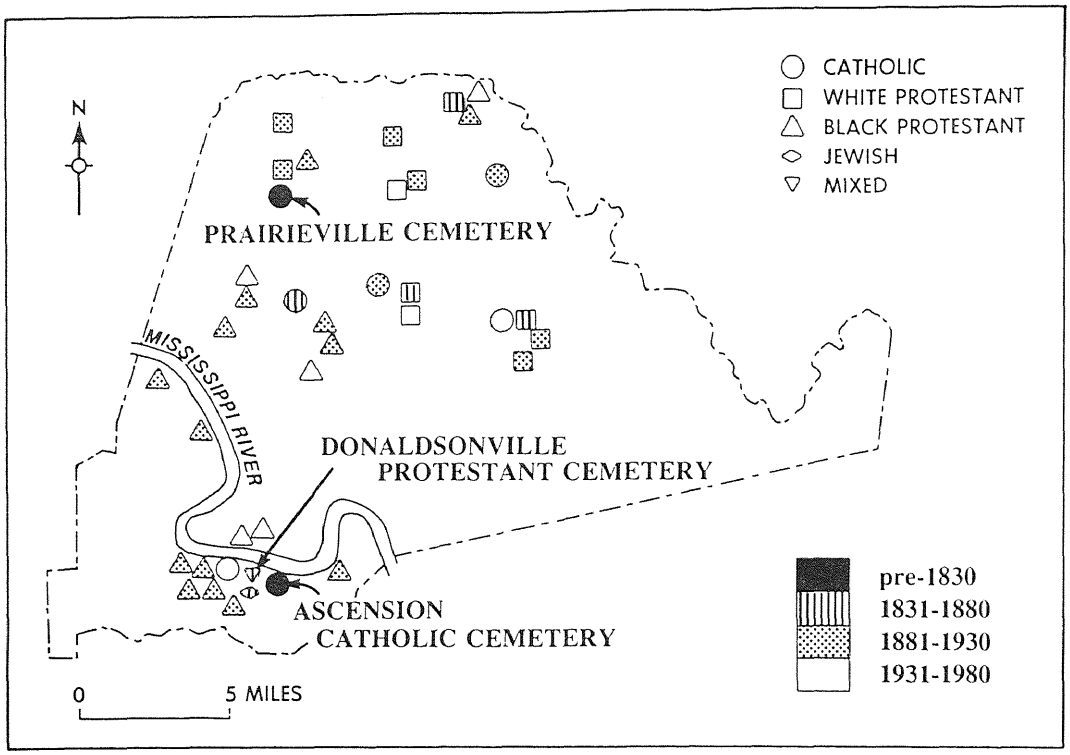
地形図によれば，このアセンション郡に39墓地存在する（第2図）．そのうちミシシッピ川自然堤防に15，ニューリバー川自然堤防に9，急崖地域に15墓地が立地するが，後背湿地には1墓地も存在しない．ミシシッピ川よりも東部（以下東アセンションと呼ぶ）には26墓地，西部（西アセンション）には13墓地立地する．次章において，これらの39墓地がいかなる人々によってつくり出され，どの様な形態を示すかを検討したい．

Ⅳ　墓地形態の分布

Ⅳ－1　社会的特性

アセンション郡の墓地のうち，33墓地が教会に，3墓地が教会以外のコミュニティに属している．アングロサクソン系の3墓地のみが，家族墓地である．商業用の墓地は存在せず，この地域の墓地に眠る人々の大多数は，郡内にかつて居住した人々である．したがって，アセンション郡の墓地は，アセンション郡の社会を比較的完結した形で反映していると考えられる．

他のアメリカ南部の地域同様，アセンション郡においても，人々は宗教や人種ごとの墓地を形成し



MLE, CARTO. SECT., LSU

第3図　墓地設立年代

ている（第3図）．アセンション郡には，7のカトリック墓地，31のプロテスタント墓地，そして1つのユダヤ人墓地が存在する．

カトリック墓地のうち5つが東アセンションに，2つが西アセンションに分布する．ドナルドソルビルに存在するアセンション・カトリック墓地は，1,800の墓を有する郡最大の墓地である[17]．またそれは1772年に設立された，現在まで継続して使用されている墓地の中で最古のものである．1940年に，白人専用のセント・フランシス墓地がドナルドソルビン西郊に設立されるまでは，アセンション・カトリック墓地が，西アセンション唯一のカトリック墓地であった．その墓地に埋葬されている人々の大多数は白人であるが，その東隅に，黒人の墓が固まって配列されている．

1,500の墓を有するプレーリービル墓地は，1785年に設立された東アセンションの中心的なカトリック墓地である．しかし，1880年から1930年にかけて，4つの他の墓地がカトリック教会によって設立されたために，1墓地への集中度は西アセンションほど高くない．プレーリービル墓地に埋葬されている人々の90%以上は白人であるが，若干黒人の墓も存在する．その他の西アセンションのカトリック墓地は，すべて白人によって構成されている．

プロテスタントの31墓地のうち，11墓地が白人のみ，19墓地が黒人のみによって構成され，人種的に混合しているのは，ドナルドソンビル・プロテスタント墓地のみである．ドナルドソンビル・プロテスタント墓地は，市に居住するプロテスタントの要望に応じて，1875年に市が設立したものであるが，現在，経営は非営利的共同団体に移っている．墓地を構成する500の墓の約60%が白人，40%が

黒人の所有である．宗派としては，バプティスト，メソディスト，長老派等がある，西アセンションには，これ以外に白人プロテスタントのための墓地は存在しない．

白人専用の11のプロテスタント墓地は，すべて東アセンションに分布する．このうち7墓地がバプティスト，3墓地がメソディスト，1墓地がペンテコステである．これらの墓地を維持している人々のほとんどが，この地域に住む少数派の台地南部人や，近年他地域から移住してきた人々であり，フランス系の人々は，最近現われてきた改宗者を除いてほとんど存在しない．

黒人プロテスタント墓地のうち，11墓地は東アセンションに，9墓地は西アセンションに分布する．1つのメソディスト墓地を除けば，すべてがバプティスト教会に属する．都市や，比較的大きな集落に立地する傾向のある他の墓地と比較して，小さな黒人集落内に立地する傾向が強い．起源に関する記録は少ないが，聞き取り，古地図，墓碑年代によって推定すれば，1880年以前に設立されて現在まで利用されている墓地はなく，大多数が今世紀に設立されたものであろう．

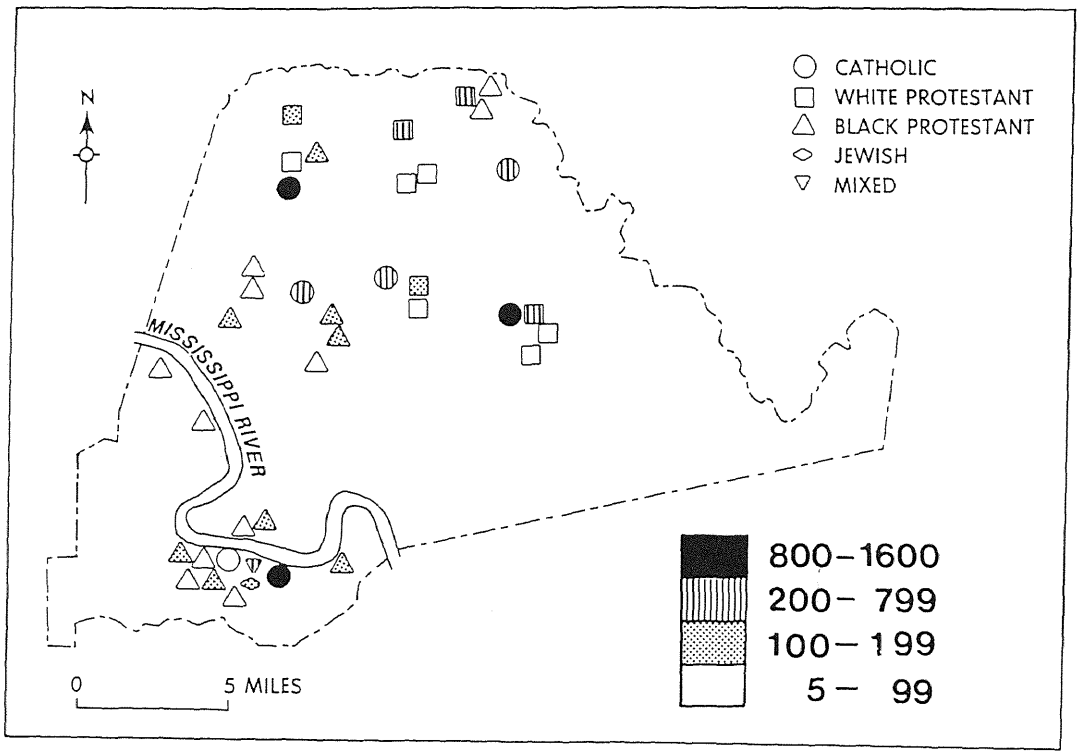
唯一のユダヤ人墓地であるビクア・ショーリム墓地は，ドナルドソンビルに立地している．その起源は，南北戦争前の1856年であり，現在120の墓を内包している[17]．

このようなアセンション郡の墓地における，宗教，人種による分離は，生ける人々の住み分け選好のパターンをより昇華した形で現わしている．居住空間においては，民族ごとの居住地域の区分が困難である場合がしばしば見られるのに対して，死の空間である墓地においては，境界が明確に定められたユニットごとに，比較的単一的な社会属性を有する人々がまとめられている．異なった人種を同一の墓地内に持つアセンションカトリック墓地や，ドナルドソンビル・プロテスタント墓地においてさえも，墓地内における人種分離は比較的明瞭な形で現われている．

Ⅳ—2　規　　模

アセンション郡は，カトリック教会に登録されていることが明らかになっている人々だけで全人口の6割を占める，カトリック色の強い郡であるにもかかわらず，カトリック墓地の割合はわずかに18％にすぎない．対照的に，黒人人口は，全体の23％にすぎないにもかかわらず，黒人プロテスタントの墓地だけでも，全墓地数の49％を占めている．このことから，宗教や人種によって，墓地の規模に著しい差異が存在することが明らかである．

カトリックの1墓地あたりの平均墓数は761であり，白人プロテスタント墓地（平均186墓）の4.1倍，ユダヤ人墓地（120墓）の6.3倍，黒人プロテスタント墓地（平均90墓）の8.5倍にも相当する．800以上の墓を有する3墓地は，すべてカトリック系であり，1つを除いて，すべてのカトリック墓地は，200以上の墓を有する（第4図）．カトリック墓地のこの大きな規模は，カトリック教会の組織に関連している場合が多い．カトリック教会は，地域を教区にわけ，そこに教会をもうけ，神父を中央から任命してその教会に送ることによって，信徒を管理する．そのときに，カトリックが卓越するアセンション郡のような地域では，1教会あたりの信徒数が多くなる傾向がある．カトリックは一般的に，教会に接して墓地を造り，教会員をその墓地内に無料で埋葬地を提供する．その結果，この地域のカトリック墓地も大規模なものとなった．



第4図　墓地内における墓数

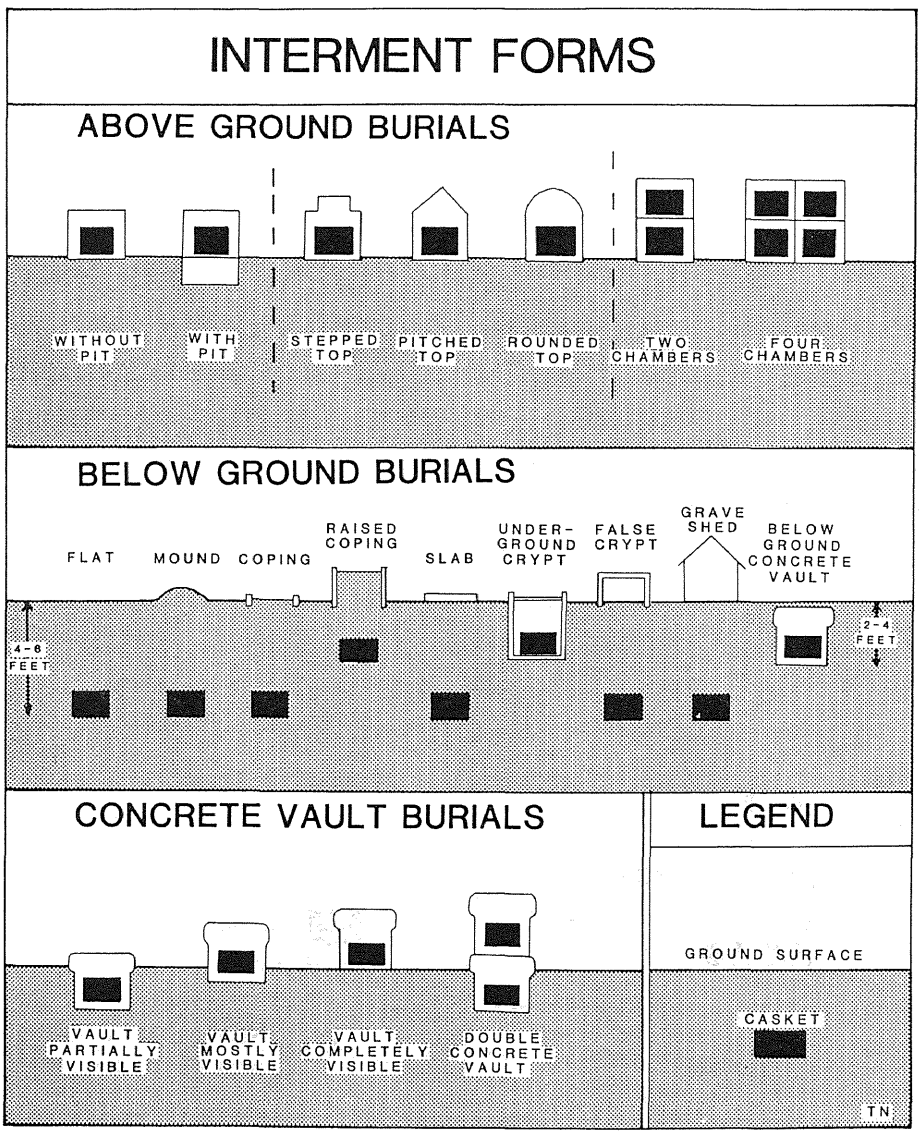
これに対して，平均して最も規模の小さい墓地を有する集団は，黒人プロテスタントである．19墓地のうち10墓地が，100墓未満であり，200以上の墓を持つ墓地は，1つしか存在しない．合衆国南部農村地域における黒人は一般的に，小集落ごとにプロテスタント教会を中心としたコミュニティをつくる傾向を持つ[18]．カトリックとは異なり，教会権威の主導によってコミュニティが運営されるのではなく，コミュニティメンバーが，自分達の主導のもとに，牧師を教会へ招き，教会運営をはじめとするコミュニティ活動を行なっている．その結果，墓地もコミュニティ単位の小さなものになる傾向がある．

白人プロテスタントの1墓地あたりの墓数は，平均で186であるが，墓地ごとの大きさには比較的大きな差異がみられる．11墓地のうち，3墓地が200以上の墓を，2墓地が100以上200未満の墓を有し，6墓地が100墓未満の小規模なものである．黒人プロテスタント同様，白人プロテスタントも，コミニュティ主導の教会運営を行なっているが，コミュニティの地理的範囲は，黒人よりも大きい傾向がある．大多数のアングロサクソン系の人々は，このようなコミュニティ墓地に埋葬されるが，伝統的な南部台地人の中には，前述したように家族墓地を持つものもいる．白人プロテスタント墓地にみられる様々な規模は，このような異なった種類の景観形成者を，同時に有していることに起因する．

Ⅳ－3　埋　葬　形　態

アセンション郡内の墓地において，死体はすべて土葬され，観察や聞き取りをした限りでは，火葬は1例も存在しない．郡内において，地域的，民族的に最も顕著な差異がみられる墓地景観要素の1つは，地面に対する死体の埋葬の高さである，従来の研究においても，ルイジアナの墓地の地域的差異が，この埋葬位置に着目して叙述されてきた[19]．すなわち，アングロサクソンの卓越する北ルイジアナでは，合衆国で一般的にみられるように，死体は地面の1.8m下に埋葬されるのに対して，フランス系の南ルイジアナでは，特徴的に多くの死体は地上に建設された地上埋葬墓に収納される．したがって本節では，この埋葬形態を分類し，各形態ごとの分布を考察する．

ここでは，すべての埋葬を，地上埋葬，地下埋葬，コンクリート棺埋葬の3形態に分類する（第5



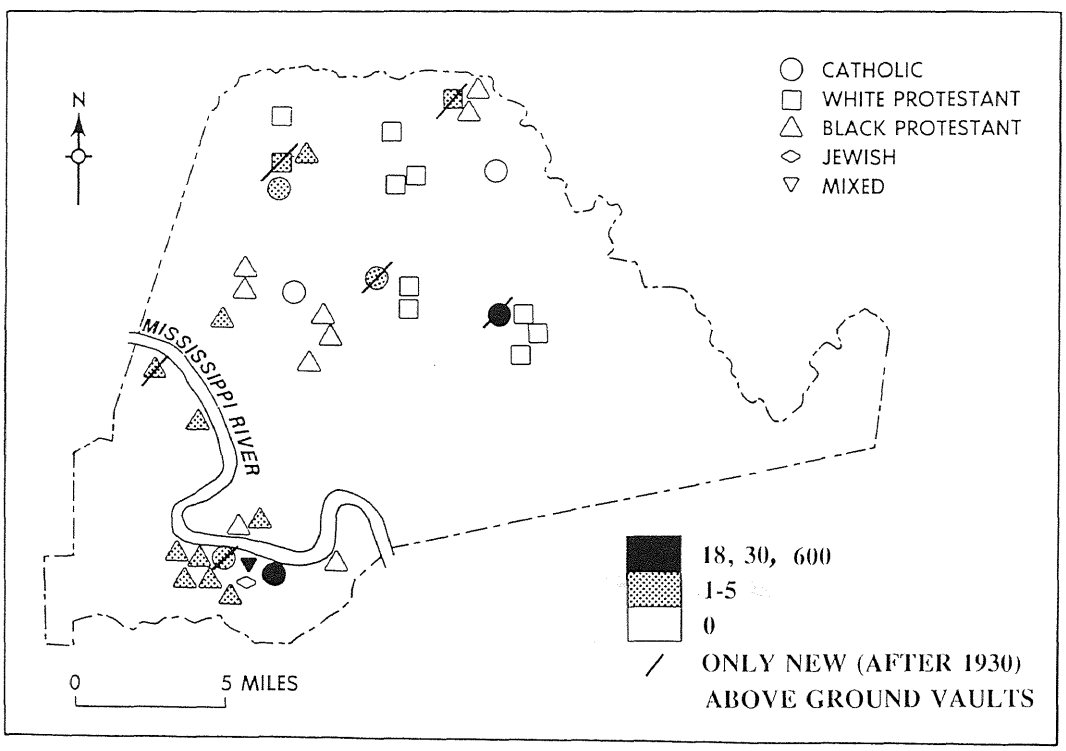
第5図　埋葬形態の分類

図)．地上埋葬は，地上に煉瓦，石，またはコンクリートを用いて建設された地上墓に埋葬する方法である．地上墓の「屋根」には，平たいもの，丸いもの，傾斜しているものなど様々であり，また，納体する室数にも，1，2，4，6など，異なったものが存在する．

これに対して，地下埋葬は，棺を完全に地面下に埋葬する方法である．一般的に1.2mないし1.8mの深さに墓穴が掘られ，そこに本製，または金属製の棺が安置され，そして60cmないし1.2mの土がかぶせられる．人々は埋葬地に，平にしたまま芝を生育させたり，土を丸く盛ったり，またはコンクリートでその場所を囲ったり，コンクリート板を置いたりしている．

コンクリート棺は，木製，金属製の棺をさらに収納する棺容器である．このコンクリート棺は，元来地下埋葬のためにつくられたものであるが，南ルイジアナの人々は，様々な位置にコンクリート棺を置く．あるものは完全に地上に置かれ，別のものは完全に地下に埋められるが，大多数のものはその両者の中間である．ここでは，「コンクリート棺埋葬」を，地上から棺を観察できるものに限り，地下に埋葬されているものをこの定義から排除した．

さて，他の南ルイジアナ地域同様，アセンション郡にも地上埋葬墓は存在する（第6図）．とくにアセンション・カトリック墓地においては，600の地上埋葬墓が，全埋葬の少なくとも60%を占めている．地上埋葬墓には，古いもので19世紀初期に建築されたものもあり，当時から現在に至るまで，グリーク・リバイバル，ゴチック，ビクトリア様式など，ニューオーリンズの墓建築家によって考察されたその時々の流行様式が，裕福な家族の墓に反映している[20]．



第6図　地上埋葬墓の分布

しかし，他の墓地においては，地上埋葬墓は一般的な形態ではない．ドナルドソンビル・プロテスタント墓地においては30の，ホリー・ロサリー墓地においては18の地上埋葬墓が存在するが，いずれにおいても，地上埋葬は全埋葬の5％にも満たない．15墓地においては，地上埋葬墓は5以下であり，21墓地においては，地上埋葬墓は存在しない．

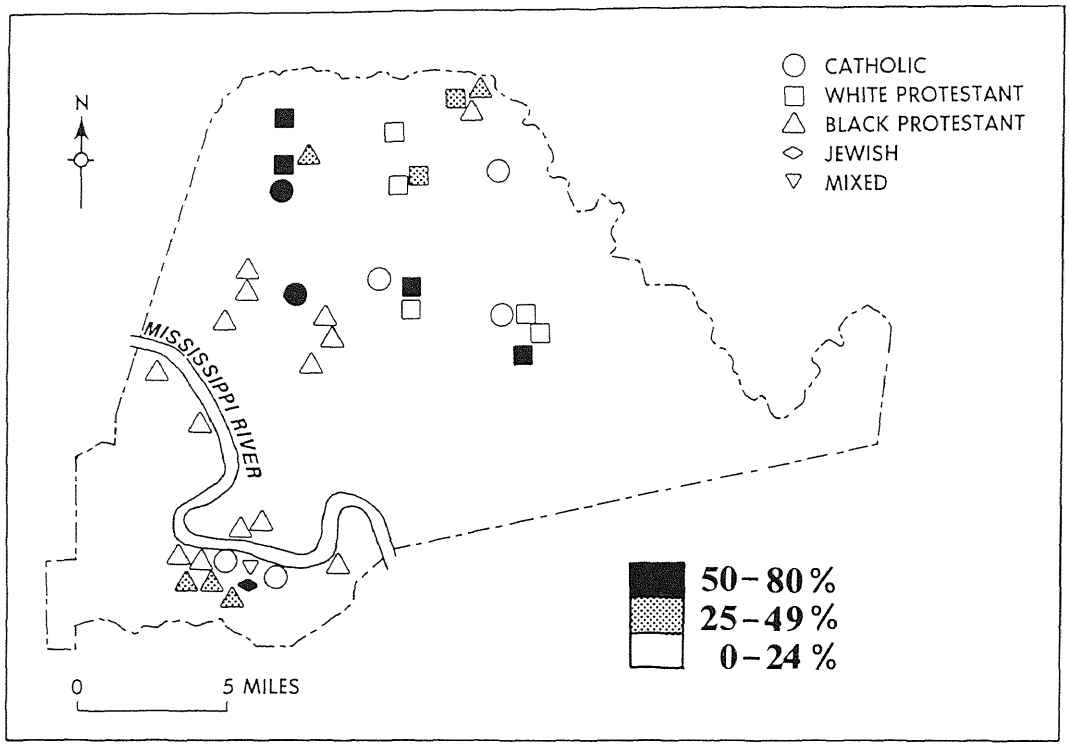
地上埋葬墓の，この著しい偏在は，自然的基盤の差異のみでは，説明が不可能である．一般的に，地上埋葬慣行は，南ルイジアナにおける高地下水面によるものと信じられているが[21]，郡内において，アセンション・カトリック墓地のみが著しく地下水面が高いというわけではない．ほとんど隣接するユダヤ人墓地の，ビクア・ショーリム墓地では，すべての埋葬が，地面下に行なわれている．アセンション郡の人々が，棺が水に浸るということを嫌うことは確かであるが，もし水を防ぐことだけが目的ならば，彼らはより安価なコンクリート棺埋葬を行なう方が合理的である．

地上埋葬墓の分布には，文化・歴史的な考察が不可欠となる．分布の特徴としてまずあげられることは，ミシシッピ川を境界とした東西アセンションの差異である．西アセンションの12墓地のうち，10墓地に地上埋葬墓が存在するのに対して，東アセンションでは，27墓地中7墓地に地上埋葬墓が存在するにすぎない．さらに，時間的推移を検討すると，1930年以前の地上埋葬墓が，カトリックと黒人プロテスタント墓地にのみに存在し，それを含む12墓地域のうち，8墓地が西アセンションに分布する．

この分布には，次のような文化史が反映していることが推測される．ルイジアナで最初に地上埋葬墓が建設されたのは，1789年に設立されたニューオリンズのセント・ルイス第一墓地においてであるが[22]，その後18世紀の前半にかけて，その地で地上埋葬墓が一般的になり，同時に他のフランス系ルイジアナの中心都市にも伝播していった[23]．ドナルドソンビルが，ニューオーリンズとバトンルージュの間に位置する，南ルイジアナの主要都市であり，政治的，経済的，および宗教的にニューオーリンズとの結びつきが強かった．カトリック司祭や，政治，経済的リーダーを含む人々の交流や移住によって，地上埋葬墓が，当時から中心的な墓地であったアセンション・カトリック墓地に移植され，それが一般的な慣行となったものと考えられる．その地上埋葬慣行が，ドナルトソンビル地域に住む黒人達にとっても理想的なモデルとなり，比較的裕福な者達が，煉瓦やコンクリートによって地上埋葬墓を建築した．この墓形態は，1930年前後に東アセンションにも見られるようになったが，東アセンションの人々にとっては，地上埋葬墓は数ある様式の一形態にすぎず，西アセンションの人々が考えるような理想的な形態とはならなかった．

起源の古い地上埋葬墓とは対照的に，コンクリート棺埋葬はアセンション郡では1920年代に始まった．それまでは，アセンション・カトリック墓地を除いて，すべての墓地において地下埋葬が卓越していたが，このコンクリート棺の導入によって，掘る墓の深さが一度に浅くなっていった．一般的に，深さ50㎝前後の穴が掘られ，コンクリート棺がそこに安置される．その結果，棺の蓋に当たる部分が地表面に現われる．現在では39墓地中33墓地において，このコンクリート棺埋葬が過半数の埋葬形態になっている，

地上埋葬率が60％にいたるアセンション・カトリック墓地を除いて，コンクリート棺埋葬率は，地



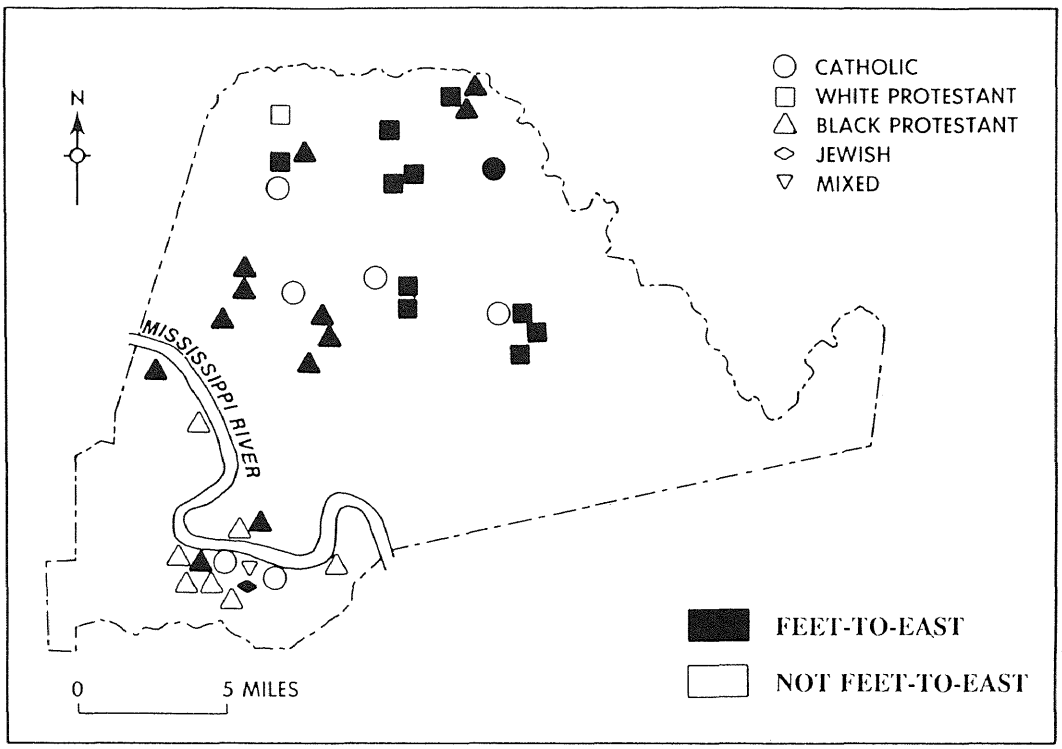
第7図　地下埋葬率

下埋葬率とほぼ相補的であるために，ここでは両埋葬率を，地下埋葬率の分布によって検討する（第7図）．地下埋葬率が50%以上の墓地は，現在では7墓地にすぎない，そのうち，地上埋葬やコンクリート棺埋葬を嫌うユダヤ人の，ビクア・ショーレム墓地のみが，すべて地下埋葬である．地下埋葬は，24墓地において25%未満，そのうち4墓地では皆無である．このことは，棺をなるべく水に浸す確立の高い地下から遠ざけようとする人々の希望が，コンクリート棺の出現によって安価に実現したことによるのかもしれない[24]．

Ⅳ—4　埋　葬　方　位

ルイジアナのカトリックとプロテスタントで，際だって異なる墓地景観要素の一つは，墓の方位である．台地南部のプロテスタントは，伝統的に死体の足を東に向ける方法で埋葬を行なう[25]．この慣習の起源に関しては，イギリス，地中海北岸地域，北西ヨーロッパなど諸説があるが，地元の人々には，この埋葬方位は，東からイエス・キリストが再臨するときに，その方向に顔を向けて起きあがるためであると解釈されている[26]．ユダヤ人墓地も，その解釈は異なるが，伝統的に東向きであることが報告されている[27]．これに対して，カトリック墓地では，埋葬方向を単に便宜的に決定している場合が多い[28]．

この傾向は，アセンション郡においても顕著にみられる（第8図）．プロテスタント墓地の71%とユダヤ人墓地において，全墓が東向きであるのに対して，カトリック墓地のうち1墓地（14%）のみ



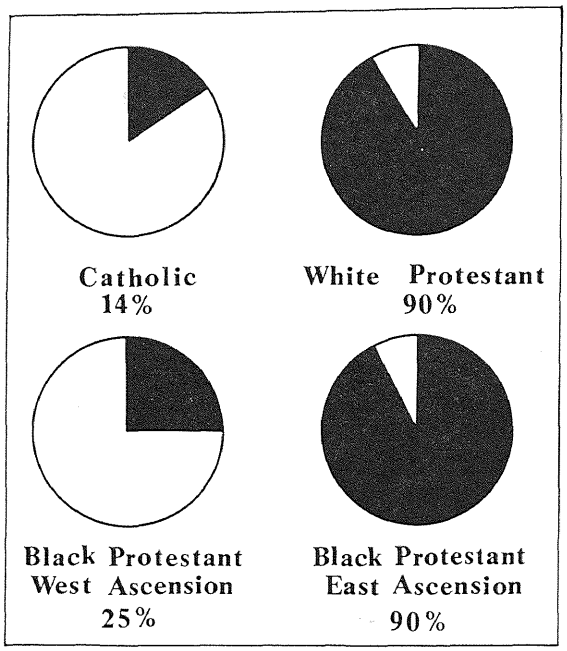
MLE, CARTO. SECT., LSU

第8図　埋　葬　方　位

が東向き埋葬方位を有する．しかしプロテスタントの中でも，黒人墓地は顕著な地域差を現わしている，東アセンションの，黒人プロテスタントの墓地の90%は東向き埋葬方位を示し，白人プロテスタント墓地のパターンと同様であるのに対して，西アセンションの黒人プロテスタント墓地は，その25%のみが東向き埋葬方位を示し，逆にカトリック墓地と類似したパターンを示す（第9図）．このことは，西アセンションの黒人プロテスタントが，カトリック主流の伝統的文化の中で，プロテスタントとしてのアイデンディティを弱体化させていることを示しているのかもしれない．ドナルドソンビル地域では，黒人カトリックと黒人プロテスタント間の結婚も頻繁に行なわれているために，習俗の混交が進展していることも考えられる．

Ⅳ－5　クロスの使用

墓地に用いる宗教的シンボルに対する態度は，カトリック，プロテスタント，ユダヤ教徒で異なる．ユダヤ教徒がキリスト教的なシンボルを忌み嫌うことは当然であるが，クロスや聖徒の像といった，一見キリスト教的なシンボルに対しても，カトリックとプロテスタントは異なった価値観を示す．典型的なルイジアナのカトリック墓地では，墓地の中央にセントラルクロスがあり，毎年11月1日の万聖節（All Saints' Day）に，その前で先祖供養のミサが行なわれる，この墓地には，クロスや，マリア像，イエス像などが頻繁に墓標として置かれている，これに対してプロテスタント墓地には，セントラルクロスはなく，万聖節もない，像やクロスを墓標として用いることも，「カトリック的」で

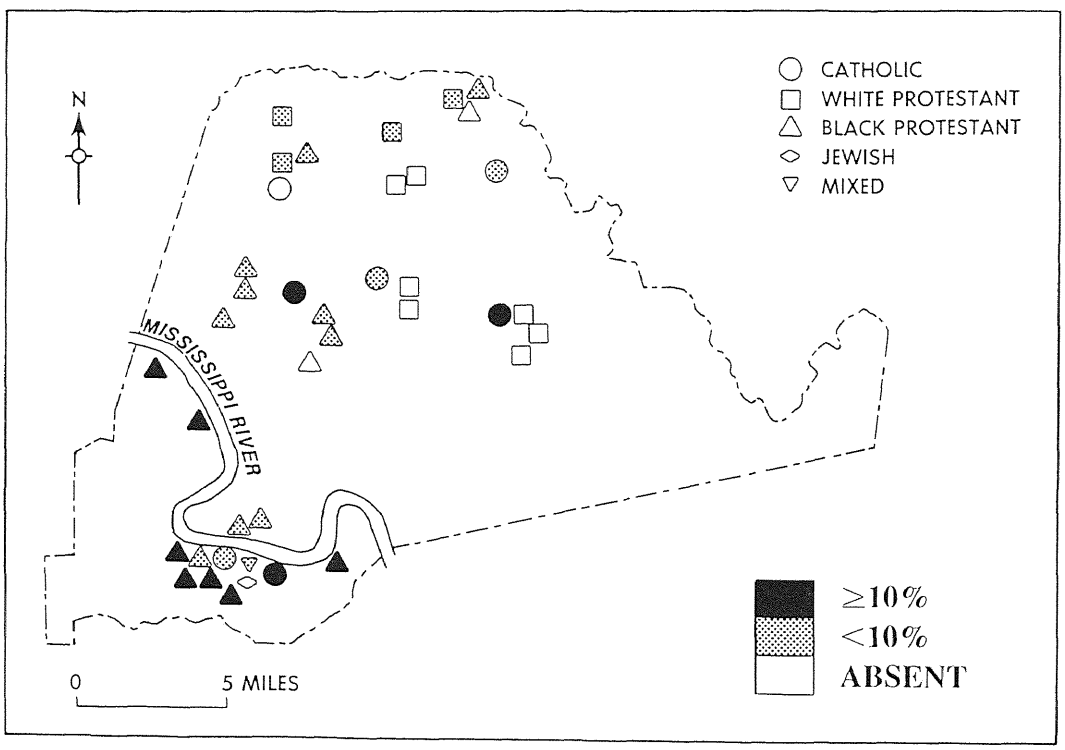


第9図　民族別東向き墓地の割合

あるとされ，著しく少ない[29]．

アセンション郡において，セントラルクロスを有する墓地は，6墓地存在するが，すべてカトリックである．セントラルクロスは，墓地を所有する団体が設置するものであるため，原則的にプロテスタント墓地に存在することは考えられない．しかし，個人に比較的選択の自由がある個々の墓におけるクロスの設置に関しても，カトリックとプロテスタントには，大きな差異がみられる（第10図）．すべてのカトリック墓地においてクロスが，使用されているのに対して，プロテスタントの31墓地中，9墓地においてクロスは存在しない，とくに，白人プロテスタント墓地においてクロス使用頻度は低く，11墓地中，7墓地においてクロスの使用がみられない．

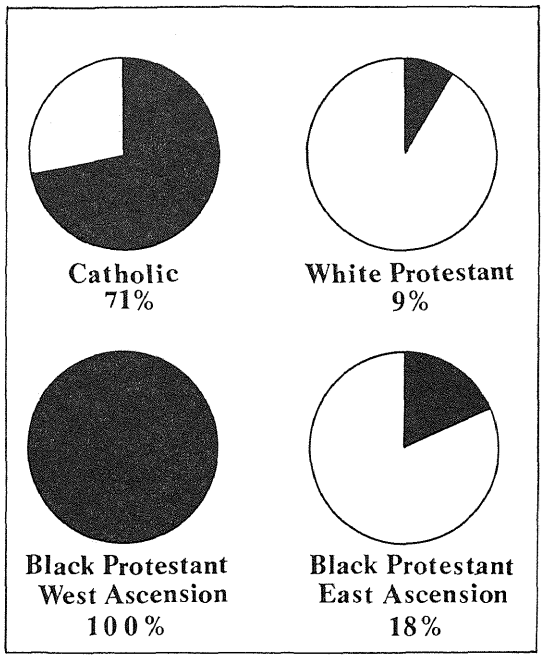
クロスの使用頻度には，地域的にも大きな差異がある，西アセンションにおいては，ユダヤ人墓地



第10図　クロスを使用する墓の割合

を除くすべての墓地にクロスが用いられており，クロスを持つ墓の割合は10％以上になっている．これに対して東アセンションでは，29墓地中9墓地においてクロスがみられず，クロスの存在する墓地の中でも，10％以上の墓がクロスを持つものは2カトリック墓地にすぎない．

この東西の地域差は，黒人プロテスタント墓地間においてとくに著しい．東アセンションにおいて，5％以上のクロスを持つ黒人プロテスタント墓地は，11墓地中2墓地（18％）で，白人プロテスタントと比較的類似したパターンを示すのに対して，西アセンションにおいては，すべての黒人プロテスタント墓地が5％以上のクロスを持ち，カトリック以上に「カトリック的」になっている（第11図）．埋葬方位のパターンと同様，このクロスの分布も，西アセンションの黒人プロテスタントが，カトリック文化に融合していることを示していると考えられる．カトリック化した西アセンションの黒人プロテスタントにとって，クロスは，死者をまつるにふさわしく，かつ安価に設置できる墓標とみなされているのであろう．



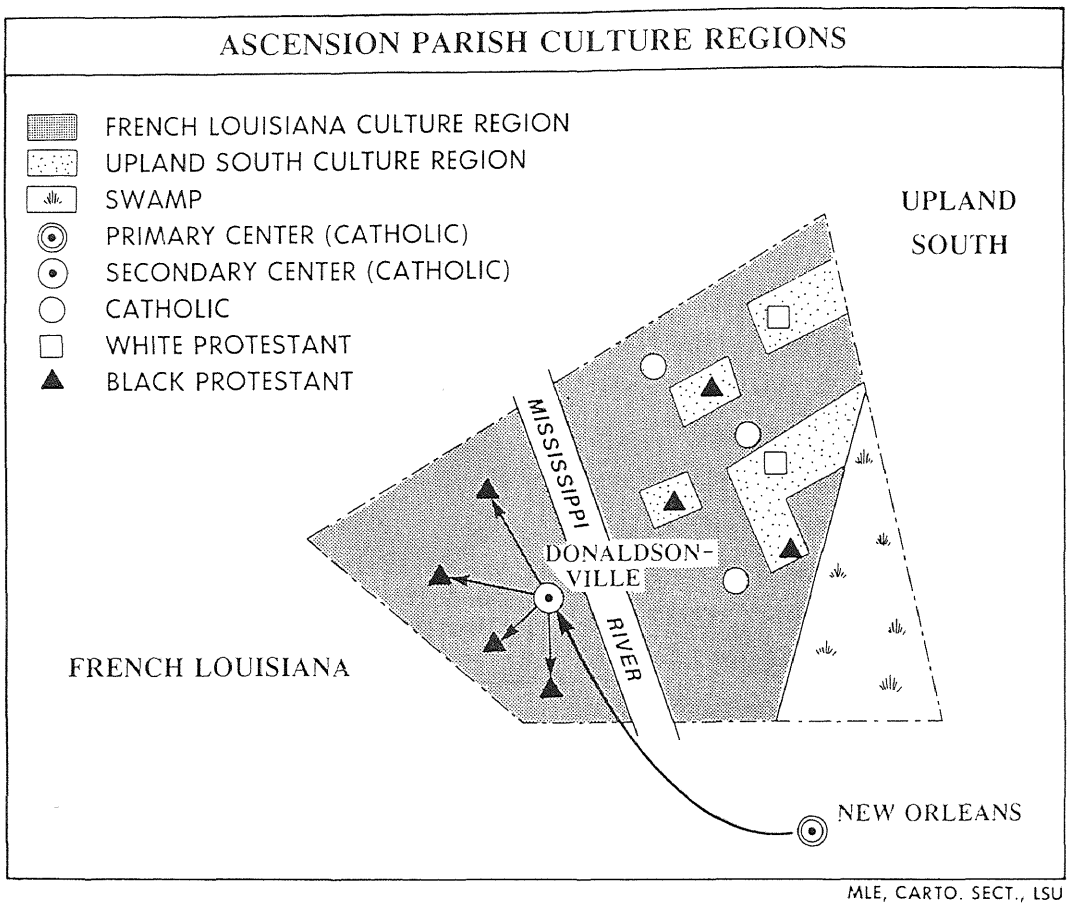
第11図　5％以上のクロスを有する民族別墓地率

V　墓地からみたアセンション郡の文化地域

以上のような，アセンション郡における文化的パターンは，郡内の墓地景観の地域差・民族差を模式化することによって，明白な形で表現することができる．ここでは，前章の考察に基づいて，仮説的なアセンション文化地域構造図を提示する（第12図）．

アセンション郡は，基本的には，カトリック的色彩の強いフランス系ルイジアナに属するが，フランス系ルイジアナ文化の度合は西アセンションに強い．西アセンションにおいては，黒人プロテスタントが，プロテスタントとしてのアイデンディティを弱めており，このことは，プロテスタントに特徴的な東向き埋葬慣行を採用していないことに現われている．彼らは，逆にカトリック的なシンボルであるクロスを使用することによって，カトリック文化へのアイデンティティを表現することさえしている．これは，西アセンションに住む黒人プロテスタント達が，長年にわたるフランス系の人々との交流によって，または黒人カトリックとの結婚によって，カトリック的な価値観を持つようになったためかもしれない．

これに対して，東アセンションでは，フランス系の人々が人口の過半数を占めるが，アングロサクソン系，または黒人達がプロテスタント的なアイデンティティを墓地景観に表現している．プロテス



第12図　アセンション郡の文化地域構造

タント達は，白人であれ，黒人であれ，東向きの埋葬を行ない，カトリック的なシンボルであるクロスをそれほど使用しない．この南部台地的な文化は，東アセンションにおいてモザイク状に侵入しており，カトリックとの融合の度合は低い．

この東西アセンションの差異は，地上埋葬墓の伝播にみられる都市間，および都市農村間の，文化拡散構造にも現われている，地上埋葬墓は，フランス系ルイジアナにおける一次中心地であるニューオーリンズから二次中心地であるドナルドソンビルに伝播し，その文化的周辺地域である西アセンションに広がっていった，西アセンションでは，カトリックがこの文化的階層構造の上部に，プロテスタントがその下部に位置している．これに対して東アセンションでは，その歴史が浅いことも関連して，このような階層的な構造は生まれなかった．カトリック文化とプロテスタント文化は，並列的に存在し，それぞれに典型的な景観を維持している．

Ⅵ む す び

本稿は，合衆国ルイジアナ州アセンション郡における，墓地形態の空間的・民族的差異を分析することによって，墓地研究の地理学的価値の検討を試みるものである．そのために，アセンション郡の39墓地が，それぞれ宗教と人種によって分類され，墓地規模，埋葬形態，埋葬方位，クロスの使用の景観要素から検討された．

アセンション郡の墓地は，カトリック，プロテスタント，ユダヤ教徒で，明瞭に分離している．プロテスタントにおいても，黒人と白人は，1墓地の例を除けば，すべて異なった墓地に死体を埋葬している．この宗教・人種的な分離現象は，生ける社会におけるすみわけよりも，さらに明瞭なパターンを示している，墓地は生ける人々の居住選好の一側面を，境界の定まった空間に象徴的に刻印するものと考えられる．

民族間の墓地の規模の差異は，宗教的組織，あるいはコミュニティ組織の性格の差異を繁栄している．カトリック墓地の平均規模は，プロテスタント墓地の6.4倍に達している．これは，プロテスタントがコミュニティを主体として宗教活動を行なうのに対して，カトリックが教会を主体をして信徒を組織することによる．

埋葬方位とクロス使用の分布によって，西アセンションでの強いフランス系ルイジアナ文化と，東アセンションにおけるフランス系ルイジアナ文化と南部台地文化のモザイク構造が明らかになった．カトリックと白人プロテスタントが，比較的自宗教の慣習を維持するのに対して，黒人プロテスタントは，その地域の優勢な文化に同化する傾向が強い．また地上埋葬墓の分布から，南ルイジアナのニューオーリンズを一次中心地，ドナルドソンビルを二次中心地，西アセンション地域をその周辺地域とする文化地域構造が推定された．このアセンション文化地域構造を，明瞭な形で模式化することもなされた．

以上の検討から，墓地を研究対象とする地理学的価値が明らかになろう．墓地は，人々の信仰領域を象徴的に，形として現わし，生ける社会の文化的側面の縮図となっている．墓地を対象とすることによって，文化地域区分，文化集団の特質の理解，そして信仰の空間的差異をとらえる手がかりを得ることができる．今後，異なった地域で，異なったスケールにおける実証的研究が課題となろう．

本稿は、1985年1月に合衆国 Boston において開催された、 Society for Hisotrical Archaeology において発表した原稿を加筆修正したものである．本稿の作成に当たり、Dr. Milton B. Newton, Jr. と Dr. Fred B. Kniffen に助言をいただいた． なお調査には、 1984年度の Louisiana State University Robert C. West Awards による研究費を使用した．記して謝意を表する．

注・参考文献

1) Kniffen, F. B. (1967) : Necrogeography in the United States. *Geographical Review*, **57**, 426-427. Frankaviglia, R. V. (1971) : The cemetery as an evolving cultural landscape. *Annals*, Association of American Geographers, **61**, 501-509. Jeane, D. G. (1972) : A plea for the end of the tombstone-style geography. *Annals*, Association of American Geographers, **62**, 146-148.

2) Sauer, C. O. (1941) : Foreword to historical geography. *Annals*, Association of American Gegraphers, **31**, 7.

3) Kniffen, 前掲1).

4) Deetz, J. F., and Dethlefsen, E. S. (1967) : Death head, cherub, urn, and willow. *Natural History*, **76** (3), 28-37. Dethlefsen, E. S. (1981) : The cemetery and culture change : archaeological focus and ethnographic perspective. *In* Gould, R., and Schiffer, M. B., eds., Modern Material Culture. Academic Press, New York.

5) Jordan, T. G. (1982) : *Texas Gravayards : A Cultural Legacy*. Univ. of Texas Press, Austin.

6) Sopher, D. E. (1967) : *The Geography of Religion*. Prentice-Hall, Englewood Cliffs.

7) Young, F. W. (1960) : Graveyards and social sturucture. *Rural Sociolgy*, **25**, 446-450.

8) Brunhes, J. (1920) : *Human Geography*. Translated by LeCompte, I. C., Rand McNally, Chicago.

9) Wagner, P. L., and Mikesell, M. W. (1962) : The themes of cultural geography. *In* Wagner, P. L., and Mikesell, M. W. eds., Readings in Culutural Geography. Univ. of Chicago Press, Chicago, 10.

10) Knipmeyer, W. B. (1956) : *Settlement Succession in Eastern French Louisiana*. Unpublished Ph. D. Dissertation, Louisiana State University.

11) Zelinsky, W. (1976) : Unearthy delights : cemetery names and the map of the changing American afterworld. *In* Lawenthal, D., and Bowden, M. J., eds., Geography of the Mind. Oxford Univ. Press, New York.

12) Johnson, D. W., Ricard, P. R., and Quinn, B. *Churches and Church Membership in the United States*. Glenmary Research Center, Washington, D. C.

13) Newton, M. B. (1974) : Cultural preadaptation and the Upland South. *Geoscience and Man*, **5**, 148-150.

14) Newton, 前掲13), 150-151.

15) Kniffen, F. B. (1968) : *Louisiana : Its Land and People*. Louisiana State Univ. Press, Baton Rouge, 126-127.

16) Prunty, M. (1955) : The renaissance of the Southern plantation. *Geographical Review*, **65**, 459-491.

17) ドナルドソンビルにおいて，ユダヤ人は，19世紀前半から20世紀前半にかけて比較的多く居住していたが，第二次世界大戦後，人口減少を来した．ドナルドソンビル中央に存在したユダヤ教寺院は，1976年に閉鎖された．

18) Newton, M. B. (1974) : Settlement pattern as artifacts of social structure. *In* Richardson, M., ed., The Human Mirror. Louisiana State Univ. Press, Baton Rouge, 350.

19) Newton, M. B. (1987) : *Louisiana : A Geographical Portrait*. Geoforensics, Baton RoBuge, 200. Kniffen, 前掲1), 427.

20) McDowell, P. (1974) : Influence on 19th century funerary architecture. *In* Christovich, M. L. ed., New Orleans Architecture, vol. 3. Pelican Publishing Company, New Orleans, 71-134.

21) Cowan, W. G. et al. (1983) : *New Orleans : Yesterday and Today*. Louisiana State Univ. Press, Baton Rouge, 62.

22) Wilson, S., and Huber, L. (1963) : *The St. Louis Cemeteries of New Orleans*. St. Louis Cathedral, New Orleans, 10-13.

23) Nakagawa, T. (1987) : *The Cemetery as a Cultural Manifestation : Louisiana Necrogeography*. Unpublished Ph. D. Dissertation, Louisiana State University, 146.

24) Nakagawa, 前掲23), 149.

25) Jeane, G. (1969) : The traditional Upland South cemeteries. *Landscape*, **8**, 40.

26) Jordan, 前掲5), 30.

27) Huber, L. (1974) : New Orleans cemetery : a brief history. *In* Christovich, M. L. ed., New Or-

leans Architecture, Vol. 3. Pelican Publishing Company, New Orleans, 22–23.
28) Jordan, 前掲5), 70.
29) Burgess, F. (1963) : *English Churchyard Memorials*. Lutter Worth Press, London, 35. Jordan, 前掲5), 50–51.

Cemetery Forms of Ascension Parish, Louisiana: A Necrogeography

Tadashi NAKAGAWA

Necrogeography, the geographical study of death, has attracted the geographer's attention in recent years. The disposal of the deceased is common to all human beings and is subject to the comparative study. The cemetery is a tangible geographical expression of the people's belief through burial practices. Geographers, therefore, can approach the geography of belief through the cemetery in a tangible manner. This study attempts to explore the geographical value of the cemetery by examining all cemeteries in Ascension parish, Louisiana. Being located at the periphery of French Louisiana, geographical variation of the cematery forms may become an effective clue to understand cultural geography of Ascension parish.

Cemeteries in Ascension parish show a distinctive ethnic segregation, representing the preference of people. Of 39 cemeteries, 7 are Catholic, 31 are Protestant, and one is Jewish. Among Protestant cemeteries, 19 are exclusively black and 11 are exclusively white.

Variation of cemetery size among ethnic groups indicates different organizational characteristics. An average Catholic cemetery possesses 6.4 times more graves than an average Protestant cemetery. Catholic churches tend to organize their members in a larger unit, while Protestant people organize their community in a small unit with a church as their center.

Orientation of the burial and the distribution of crosses reveal strong French Louisiana cultural characteristics of the western Ascension parish. By contrast, the eastern Ascension parish juxtaposes some Protestant elements. Among different ethnic groups, black Protestants tend to assimilate their culture into that of the majority group. The distribution of aboveground burials indicates a distinct cultural hierarchy with New Orleans at its top, Donaldsonville at its second, and the western Ascension parish at the lowest rank. The eastern Ascension parish does not belong to this hierarchy.

The results clearly confirm the geographical value of cemetery. The cemetery manifests some aspects of people's belief in a substantial form. By adding cemeteries into the research area, geographers could approach the regional differentiation of culture, ethnic characteristics, and the spatial variation of belief.

写真1　アセンション・カトリック墓地の正門
オープンクロスによってカトリックとしての特徴を現わしている．普段は正面の大門を閉じたままにしておき，横門から出入りを行なう．資材を運ぶ車を通過させる場合や，万聖節などの行事を行なうときのみ大門を開ける．
（1984年9月24日）

写真2　アセンション・カトリック墓地の正面
正面奥にセントラルクロスが見える．数多くの地上埋葬墓が整然と配列されているが，東向きとは限らない．
（1984年10月5日）

写真3　アセンション・カトリック墓地東隅に固まって存在する黒人セクション
高価な地上埋葬墓は数少ないが，クロス，聖人像など，カトリック的な景観を示している．
（1984年9月24日）

写真4　アセンション・カトリック墓地内にある建築中の2階建て地上埋葬墓
(1984年9月24日)

写真5　コンクリート棺製造所
手前に完成したコンクリート棺が並んでいる.
(アセンション・カトリック墓地, 1984年9月24日)

写真6　コンクリート棺製造所内
鋳型にコンクリートを流し込んで製造する.
(アセンション・カトリック墓地, 1984年9月24日)

写真7　東アセンションのカトリック墓地
中央にセントラルクロスが建っている．アセンション・カトリック墓地とは異なり，地下埋葬が卓越している．
（プレーリービル墓地，1984年9月23日）

写真8　万聖節に備えてアセンション・カトリック墓地に，花を持ってくる人々
毎年11月1日の万聖節では，死者をまつる行事がカトリック墓地で行なわれる．中には10月中に墓掃除をしたり，花で墓を飾ったりして万聖節に備える人々も多い．
（1984年10月28日）

写真9　万聖節にカトリック墓地内で行なわれるミサ
司祭がセントラルクロスの前でミサを行なった後，墓地内をまわり，聖水によって各墓の清めを行なう．
（コーナービユー墓地，1984年11月1日）

写真10　地下埋葬の卓越する白人プロテスタント墓地
プロテスタント墓地の特徴として，すべての墓は足を東に向けている．カトリック墓地とは異なり．クロスは存在しない．
（ラスク墓地，1984年10月28日）

写真11　コンクリート棺埋葬の卓越する白人プロテスタント墓地
すべての墓は，東向きである．
（1984年９月30日）

写真12　白人・黒人がともに埋葬を行なっているドナルドソンビルプロテスタント墓地
西アセンションの特徴として，地上埋葬墓が多い．１～２の例外はあるが，墓は東向きである
（1984年９月16日）

写真13　コンクリート棺埋葬の卓越する東アセンションの黒人プロテスタント墓地

すべての埋葬は，東向きで行なわれている．白人墓地に比べて，墓石を持たない墓が多い．

（バンホフ墓地，1984年10月 8 日）

写真14　地下埋葬墓を含む東アセンションの黒人プロテスタント墓地

一般的に黒人墓地では，白人墓地ほど芝の手入れは行き届いていない．

（エベネザー墓地，1984年10月 8 日）

写真15　フランス系ルイジアナの特徴を示す西アセンションの黒人プロテスタント墓地

地上埋葬墓がみられるばかりではなく，カトリック墓地に特徴的なクロスの使用も見られる．

（イマヌエル・バプティスト墓地．1984年10月 9 日）

写真16　マリア像を置く西アセンションの黒人プロテスタント墓地

マリアを崇拝する習慣は，一般的にプロテスタントにとってタブーであり，ここにも西アセンション黒人プロテスタントのカトリック化がみられる．

（マウント・ベテル墓地，1984年9月16日）

写真17　ドナルドソンビルにあるユダヤ人墓地の入り口

ユダヤ人墓地の特徴として，装飾的な鋳鉄のフェンスが見られる

（ビクア・ショーレム墓地，1984年9月16日）

写真18　整然とした東向き埋葬を行なっているユダヤ人墓地

地表面にコンクリート板を置いているが，埋葬は，地面下に行なわれている．

（ビクア・ショレム墓地，1984年9月16日）